

先進優良事例① 遠方に位置する複数市場間の物流効率化

「モーダルシフト」・「サプライチェーン強化」に関する実証

市場間連携SCM協議会

背景・目的

・2024年問題に対応するべく、令和4年度に北九州青果(株)と横浜丸中青果(株)との間で北九州・横須賀間フェリーを活用した市場間連携輸送の実証実験を行った結果、トラック運転手の労働基準に違反せずローコストで九州産地の商品を横浜市場へ輸送を行うことについて一定の成果をあげた。
 ・両社間においては、当該事業の継続実施と市場間連携のさらなる合理化、効率化を図るべく「市場間受発注システム」を開発し、市場間連携における受発注数量や価格の決定及び入荷、販売のデータ連携による省力化の実現を目指す。

取組概要

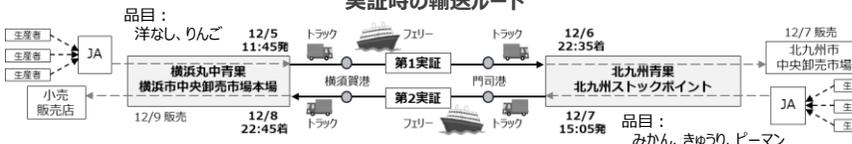
【実施内容】 市場間連携の仕組みの構築

市場間受発注システムを開発し、市場間連携や共同配送によるトラックの有効活用、市場間輸送専用パレットの活用等を検討。
 開発したシステムを用いた輸送実証の効果測定として、積み込み時間、荷下ろし時間、分荷時間等を計測。

【実施方法】 システム開発および輸送実証実施

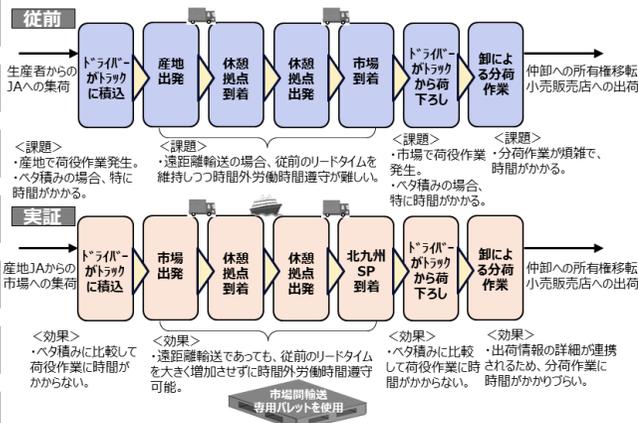
実証実施時期：
 第1実証（横浜⇒北九州）：令和5年12月4日～7日
 第2実証（北九州⇒横浜）：令和5年12月6日～9日

実証時の輸送ルート

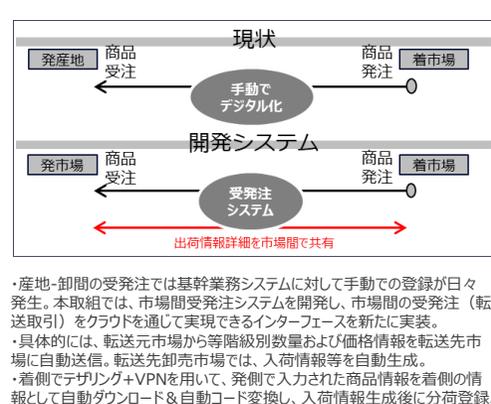


ポイント

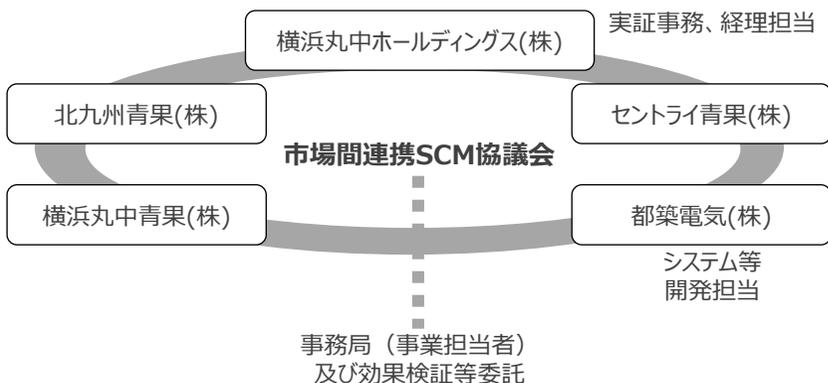
物流実証（市場間輸送専用パレットの利用）



システム実証（市場間受発注の高度化）



協議会体制図



取組成果

・横浜-北九州間の輸送において、物流面（荷役・分荷）では**50%以上**の作業時間削減効果がみられ、システム面（受発注）では**95%以上**の作業時間削減効果がみられた（下表参照）。
 ・今後は、卸3社を中心に協議会内でシステム導入効果をより高めるとともに、RFIDやGPS受信機を用いた市場間輸送専用パレットの高度化による検品効率化なども検討。

物流実証	方向	従前		実証		削減率
		発着点での積み込み	着着点での荷下ろし	発着点での積み込み	着着点での荷下ろし	
横浜⇒北九州	従前	90分	90分	30分	210分	
	実証	60分	25分	15分	100分	
	削減率	33.3%	72.2%	50.0%	52.4%	
北九州⇒横浜	従前	90分	90分	30分	210分	
	実証	40分	30分	20分	90分	
	削減率	55.6%	66.7%	33.3%	57.1%	

システム実証	方向	従前		実証		削減率
		出荷情報伝達時間	入荷情報入力時間	出荷情報伝達時間	入荷情報入力時間	
横浜⇒北九州	従前	1.00分	4.50分	5.50分	220円	
	実証	0.00分	0.24分	0.24分	10円	
	削減率	100.0%	94.7%	95.6%	95.6%	
北九州⇒横浜	従前	1.00分	3.83分	4.83分	193円	
	実証	0.00分	0.24分	0.24分	10円	
	削減率	100.0%	93.7%	95.0%	95.0%	

※コスト換算は、時給2400円（分給40円）で換算